

わたしのくらし 世界のくらし 地球にくらす7人の子どもたちのある1日



マット・ラマス/作・絵

おおつか のりこ/訳

汐文社〔384〕

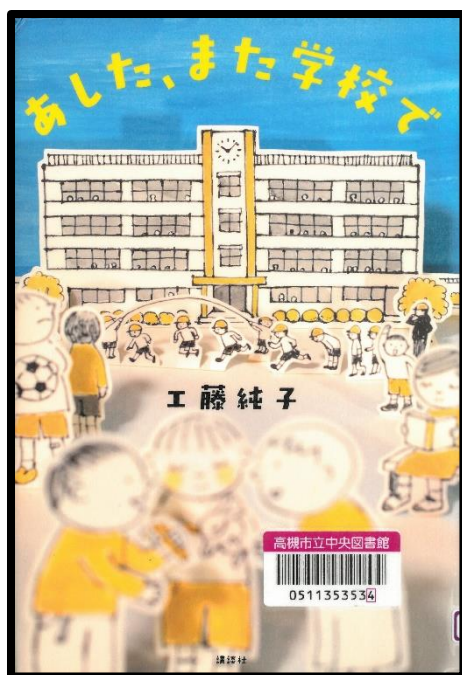
特集: 家族

イタリア、日本、イラン、インド、ペルー、ウガンダ、ロシアで暮らす7人の子どもたちの1日が、色彩豊かなイラストとともに紹介されています。

家族・朝ごはん・通学路・授業の様子・放課後の過ごし方など、文化や伝統の異なる国に暮らす7人の生活には違うところが多くありますが、共通しているところもあります。

同じ1日を世界の別の場所で過ごす子どもたちに思いを馳せてみませんか？みんな夜にはあなたと同じ月を見ています。

あした、また学校で



工藤 純子/著

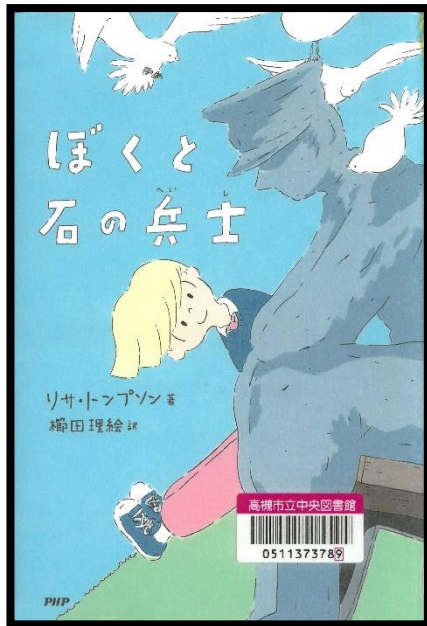
講談社〔913クド〕

一将の弟将人は、地域の小学校が集まって行う大縄跳び大会に参加するつもりでしたが、指導する先生にみんなの前で怒られ、友だちからも大会に出るなと言われる学校を休むようになります。

そのことを聞いた幼なじみの咲良は、代表委員会で将人ののはなしをします。しかし、他の委員たちはとりあってくれず無反応でした。その時、代表委員会を担当している橋本先生が、「学校はだれのものか、考えたことはありませんか？」と一将たちになぞねます。

学校はだれのものか？という問いかけをきっかけに、子どもたちが答えを見つけるために奔走します。

ぼくと石の兵士



リサ・トンプソン/著

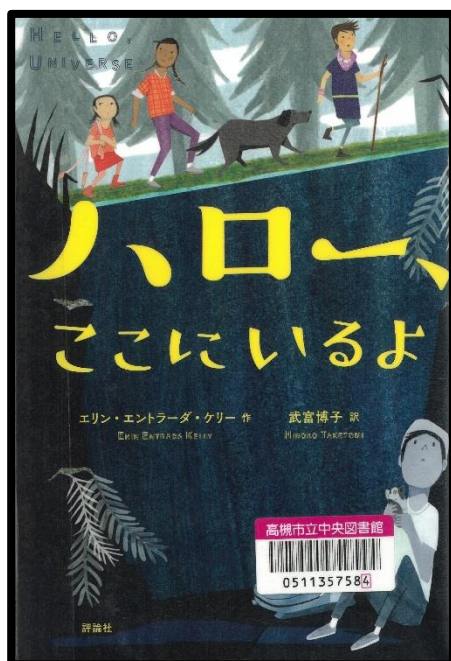
櫛田 理絵/訳

PHP 研究所[933トン]

人前で話すのが苦手なオーエンにはちょっとした秘密がある。それは、町の戦没者記念公園のベンチにすわっている古い石像の兵士とおしゃべりするのが好きだということ。学校の行き帰りに公園に立ち寄るのが日課になっていた。ところが、とうとう公園の改修工事で石像の取りこわしが決まってしまう。石の兵士を救うため、オーエンはある一大決心をする。

物語が進むにつれ、石の兵士との特別な関係が明らかになり、オーエンの秘められた想いは「詩」となって人々の心を動かします。

ハロー、ここにいるよ



エリン・エントラダ・ケリー/作

武富 博子/訳

評論社[933ケリ]

引っ込み思案なヴァージル、耳の聞こえないヴァレンシア、自称霊能者のカオリ、いじめっ子のチェットの中学生4人のお話。

ある日、ヴァージルはチェットのいたずらで大ピンチに陥るが、それに気づいたカオリとヴァレンシアがヴァージルを救おうと動き出す。

物語は代わる代わる4人の視点（してん）を行き来し、お互いの印象とそのギャップや、それぞれのおそれや不安、悩みなどの心の内を垣間（かま）見ることができます。

読みおわると、タイトルがとても意味深いものに感じることでしょう。